

ナイトセミナー「治療と変化について考える ー関西理学療法学会の限界ー」

脳血管障害片麻痺患者の麻痺側上肢機能について考える

関西医療大学保健医療学部 臨床理学療法学教室 鈴木俊明

麻痺側上肢機能の改善は、麻痺側下肢とは異なり ADL において使用する機会が少ないために難しい。また、麻痺側上肢機能を治そうとしても上肢だけの治療では難しく、肩甲帯、体幹、そして下肢との関係を明確にする必要がある。

今回、麻痺側上肢機能の改善を目標に理学療法を実施した 2 症例を紹介する。

2 症例の特徴としては、麻痺側上肢改善には、麻痺側上肢以外の部位との関連性を考えることが重要である。動作全体を観察することで運動療法を構築していくことは重要であるが、手指の巧緻動作に対しては手指単独のアプローチが重要となる。

なお、1 症例においては、機能改善とともに上肢脊髄神経機能の興奮性を F 波にて検討したのであわせて報告する。